

学校法人二戸学園
平成 30 年度事業計画

I. 学校法人二戸学園

学校法人二戸学園（以下「法人」という。）、岩手保健医療大学（以下「本学」という。）及び岩手保健医療大学附属認定こども園（以下「本園」という。）が、適正・適切に運営され社会の負託に応えるよう、法人のガバナンス機能を高めていきます。また、法人は、人々の生活と健康を高め地域社会に貢献することを建学の精神とする本学と、地域社会の関係者と積極的に連携・協力し地域の幼児教育及び保育に寄与することを目指す本園が、密接に連携することにより地域への貢献をより高めていくよう努めます。

より具体的には、法人は、以下の事項に取り組んでいくこととします。

- ① 「大学等設置に係る寄附行為（変更）認可後の財政状況及び施設等整備状況調査結果について（平成 29 年度）」（平成 30 年 2 月 23 日 文部科学省）等の意見について、その改善に向けて早急に取組む。
- ② 法人・本学・本園の管理運営関係に必要な規程及び細則の制定等の整備を推進する。
- ③ 自己点検評価に関する情報収集に努め、その仕組みの構築に向けて検討していく。
- ④ 小規模組織における FD・SD のあり方を検討し、段階的な実施を推進していく。
- ⑤ 防災危機管理体制の整備と充実に努める。

II. 岩手保健医療大学

建学の精神

「人々の生活と健康を高め／地域社会に貢献する／ケア・スピリットを備えた保健医療人」

本学は、「建学の精神」が謳うような保健医療人を育て、地域に送り出すことを目指し、4 年制の看護大学として、昨年 4 月の開学以来、活動をしてきました。開学初年度は、この精神を大学教育に具現化するため

の基本的な体制・態勢作りを行ってきました。これを踏まえて開学2年目となる平成30年度は、大学設置審に提出した計画に沿って本学としてなすべきことを進めつつ、建学の精神に謳っている本学らしさを発揮することを心掛けます。

具体的には、次の5項目を年次目標とします。

- ① 本学の教育を実現すべく行った1年目の実績を踏まえ、建学の精神に沿った教育について全教員の理解が深まり、教育体制及び個々の授業において建学の精神を目指す具体的な教育がなされるようにし、学生の学習成果により結果をもたらすようにします。また、このプロセスにおいて本学の教育の特徴を明確に示します。
- ② 看護学教育及び看護学諸分野に関わる研究を推進し、共同研究費に加えて競争的資金を獲得して、研究成果をあげるよう努めます。また、それを目指して研究環境を整えます。
- ③ 教育を通しての社会貢献に加えて、大学がもっている人的・物的資源を活用して、研究成果の社会的還元をはじめとする地域社会への貢献及び医療機関をはじめとする地域の活動との連携を推進します。
- ④ 本学の運営・管理体制を整え、年次進行に沿って備品等を整備し、教職員の適正配置とチームワークにより活動を強化し、志願者・入学者を得る努力を含め、本学の活動を推進します。
- ⑤ 完成年度後の将来展望をより具体的に練り、その具体的実現に向けて、現在からしておくべき準備を開始します。

1. 教育

- ① 設置の趣旨に掲げたカリキュラムの適正な実施及び充実
 - ・カリキュラムに沿った1・2年次の授業展開と、演習・実習指導を充実していく。
 - ・フレッシュマン合宿、サマーキャンプ等1・2年次の課外学習を充実していく。
 - ・実習施設の新たな確保に努めるとともに、実習指導者会議を開催して実習施設と密接な連携を図り、次年度以降の実習が円滑に実施できるよう準備を進めていく。
 - ・非常勤講師の確保及び分野・年齢構成に留意しつつ専任教員の適正配置に努める。
 - ・学生の授業評価に基づき、教育の充実に努める。
- ② 学生の支援活動の充実

- ・ アドバイザー制度を活性化することにより、学生の生活と学修指導を強化していく。
- ・ 国家試験対策及びキャリア形成の支援を推進していく。
- ・ 単位取得が困難な学生への個別指導及びグループ学習指導を強化していく。
- ・ 留年生、休学生に対し、保護者にも理解を得ながら、きめ細かな学修・生活支援を行っていく。
- ・ 新入生歓迎行事、大学祭、さんさ踊りへの参加等、学生の自治活動や自主的活動に対して、適切なサポートを行っていく。

③ 教員の資質向上

- ・ FD の年間計画を策定し、教育研究における教員の資質の向上を図る。

2. 研究

① 研究活動の活性化

- ・ 共同研究費を活用した平成 29 年度採択の 3 つのプロジェクト研究（下記のとおり）を推進するとともに、新たな共同研究の推進を図り、教員の研究意欲と研究水準の向上を図る。
 - ・ 岩手県内の看護学生と看護職者の職業的アイデンティティと地域志向の実態調査
 - ・ 看護大学生の「ケア・スピリット」その変化
 - ・ 本学におけるタブレット端末を用いた反転授業導入に向けての基礎研究

② 競争的資金の獲得

- ・ 科研費の応募率・採択率の向上に努める。
- ・ 外部資金獲得のための情報を収集・提供し、研究活動の活性化を図る。

③ 研究環境の整備

- ・ 若手教員に対する研究支援対策として、研究委員会及び教授による講習会等を実施する。
- ・ 学会、研修会及び外部からの研究資金情報等を迅速に確認・共有できるよう、情報提供のシステム化を図っていく。

3. 地域連携・貢献

① 地域に開かれた大学創り

- ・ 学外者の図書館利用ができるよう体制を整備する。

- ・地域交流室の活用を促進するため、地域への開放事業、学長懇話会、研究会等を企画・実施する。
- ・一般向け・専門家向けの公開講座のメニューを開発し、参加者の拡大化、多様化を図っていく。
- ・外部で開催される研修会や伝達講習等に、教職員を積極的に派遣し、資質の向上に努める。

② 高等学校及び実習関連施設との連携

- ・高等学校からの本学の見学者受入れを促進するとともに、出前授業、大学説明会等、高大連携に向けた仕組み作りを進めていく。
- ・シミュレーション教育等、実習関連病院向けの新人看護師研修会を開催する。

4. 本学の運営・管理

① 志願者と入学者の確保

- ・広報活動地域及び訪問高校を拡充していく。
- ・大学ガイダンス、HP、新聞、TV、チラシ、ポスター等各種媒体を活用した広報活動を充実させ、大学の知名度を上げていく。
- ・予備校との情報交換会を実施し、最近の進路情報の収集に努める。
- ・多様な学生の受入れ、優秀な学生の確保のため、入試選抜方法について検討を進める（社会人入試、センター試験利用入試等）。

② 大学機能の基盤強化

- ・学年進行に合わせた情報設備の基盤整備を進め、学習環境のより一層の向上に努める。
- ・学年進行に伴う設備・備品の整備を確実に取り進める。

5. 将来展望の検討

- ・完成年度後の経常費等補助金の確保を見据え、特別補助の獲得のためにも、特色ある教育研究活動を推進していく。

III. 岩手保健医療大学附属認定こども園

幼稚園型認定こども園として平成30年度をむかえる本園は、その充実に向けた取組みを進めることとし、以下の事項の実施・検討に努めていきます。

1. 園児の確保

- ① 園児の確保のため、広報活動の充実・強化図っていく。
 - ・ SNS を活用し、個人情報に留意しながら園児の状況を外部に発信していく。
 - ・ 本園内・園庭の開放を企画し、園内の様子を知る機会をつくる。
 - ・ 町内会等との交流の企画等を検討し、地域に根ざした本園づくりに努める。
 - ・ 保護者が集まる二戸市総合福祉センターの掲示板や子育て支援センターに、本園の行事の様子や子育て情報を掲載したフリーペーパー（A4サイズ1枚程度）を定期的に発行し配置する。

2. 幼児教育及び保育

- ① 本園と本学とが、地域の幼児教育及び保育に寄与することを目指し、地域社会への貢献に努める。
 - ・ 本学と連携して、二戸市において「子育て講座(仮称)」を企画する。

(以 上)